

特 集

特 集

1 「SATOYAMA国際会議2013inふくい」の開催について

1 「SATOYAMA国際会議2013inふくい」を開催しました

里山とは、人が手をかけることによって作られ、維持されてきた農地や森などの自然のことを指します。里山は食料や水、良好な生活の場を人々にもたらし、人々が自然との関わりを通じて文化や伝統を育むことを可能としてきました。しかし近年、人口増加や過疎化・高齢化等により世界中で多くの里山環境が危機に瀕しています。

こうした里山の価値を改めて見直し、守り育てていこうという国際的な会議「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」(IPSI) が、平成22年10月に設けられました。第1回の名古屋、第2回のナイロビ(ケニア)、第3回のハイデラバード(インド)に続き、第4回目の定例会合(IPSI-4)が平成25年9月に福井県で開催されました。

県ではIPSI-4を含む一週間を「SATOYAMA国際会議2013inふくい」として、9月8日(日)から14日(土)にかけて、県内各地で様々なイベントを開催しました。期間中、28の国と地域から延べ2,000人以上が参加し、福井の里地・里山・里海湖(さとうみ)の魅力を世界にアピールしました。



影絵作家藤城清治氏の作品
を用いたPRポスター

「SATOYAMA国際会議2013inふくい」スケジュール

9月8日(日)	福井こども環境教育フォーラム(場所:越前市文化センター(越前市)) 県内小学生による里山保全活動の成果発表
9月9日(月)	里山STAY(場所:福井県内各地)
9月10日(火)	外国からのIPSI-4参加者が、県内各地の里山で宿泊・交流体験
9月11日(水)	全国「里の達人」サミット(環境省・福井県主催)(場所:福井県立恐竜博物館(勝山市)) 日本国内で里地里山の保全再生に取り組む先駆者たちによるワークショップ
9月12日(木)	エクスカーション(視察先:越前市白山地区、三方五湖(美浜町・若狭町)) レセプション(場所:あわら市内)
9月13日(金)	IPSI第4回定例会合(IPSI-4)(IPSI事務局・福井県主催) 〔総会〕〔公開フォーラム〕 (場所:福井県国際交流会館(福井市))
9月14日(土)	県民シンポジウム(場所:福井県国際交流会館(福井市))

ポスターセッション
場所:福井県国際交流
会館(福井市)

2 福井こども環境教育フォーラム [9月8日(日)]

一週間にわたる「SATOYAMA国際会議2013inふくい」のオープニングイベントとして、「福井こども環境教育フォーラム」が越前市文化センターで開催されました。フォーラムには、県内小学校20校に設けられた「里地里山クラブ」で活動している子どもたちが一堂に会し、情報を交換したりアドバイザーから指導を受けたりする「福井こども環境教育フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、県内5校によるステージ発表と石川県の2校を含む17校によるポスターセッションが行われ、福井大学特命准教授前園泰徳氏より指導助言をいただきました。

当日は、学校関係者や保護者、地域の方など約1,000名が参加しました。

里地里山クラブについて

環境教育は、持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成することが主なねらいです。持続可能な社会は、環境分野だけでなく民俗学や経済学など幅広い領域と関係していることから、幅広い分野の教育を積極的に結びつけて取り組む必要があります。

そのため学校で行う環境教育は、周辺の自然や地域社会の中での様々な体験活動をととして、環境や自然と人間との関わりについての理解を深め、環境保全や環境の創造を具体的に実践する態度を身に付けるような学習活動が求められます。

県教育委員会では、モデルとなる環境教育を実践し、成果を広く発信する「里地里山クラブ推進校」を、県内17市町から20校指定し、その活動を支援しました。

福井こども環境教育フォーラム発表テーマ一覧

学校名		発表形態	取組内容
威新小学校	敦賀市	ステージ	自然の宝庫 東郷の湿地・湿原
鹿谷小学校	勝山市		赤とんぼが舞う町 鹿谷
北潟小学校	あわら市		北潟の自然と環境を守る
白山小学校	越前市		コウノトリが舞う里づくり 白山の自然
気山小学校	若狭町		いぎものいっぱい カヤ田の自然
一乗小学校	福井市	ポスター	世界に伝えよう！一乗のSATOYAMA
国富小学校	小浜市		自然いっぱい 生き物いっぱい コウの里国富
小山小学校	大野市		わき水やぎわい川が流れる小山の自然
荒土小学校	勝山市		荒土の宝を見つめて
村岡小学校	勝山市		ミチノクフクジソウの里 北谷町の自然
河和田小学校	鯖江市		ホテルやオンドリが住む里 自然豊かな河和田
北日野小学校	越前市		北日野の自然(日野山のめぐみ)
雄島小学校	坂井市		陣ヶ岡から安島まで 雄島の里山・里海
志比北小学校	永平寺町		北っ子の自然(はすごいぞ)
河野小学校	南越前町		山海里のある河野の自然
萩野小学校	越前町		わたしたちの萩野～学校の周りの植物・生き物～
新庄小学校	美浜町		自然いっぱい！笑顔いっぱい！豊かな新庄！
内浦小学校	高浜町		ふるさと内浦再発見
佐分利小学校	おおい町		佐分利川と人々の暮らし
瓜生小学校	若狭町		若狭町上中地区水辺の生き物を守ろう ～瓜生小キラキラせんたいエコレンジャー～
田鶴浜小学校	七尾市		世界農業遺産 能登の里山里海 ふるさとの自然を学び、ふるさとの自然を守る
錦城東小学校	加賀市		歴史ある城下町 大聖寺の自然



各校ポスターセッションの様子



ステージ発表の様子

3 里山STAY [9月8日(日)～11日(水)]

IPSI-4に参加する海外メンバーの方々に、里地・里山・里海湖の残る福井県内17市町に宿泊していただき、地元の方との交流事業を行いました。参加者は各市町の住民との交流を通して、福井の里山にある美しい自然、食べ物、人情を体感しました。参加者からは「いわゆる『里山』に実際に滞在してみて、初めて日本の里山のイメージをつかむことができた。貴重な機会だった。」との声が聞かれました。



永平寺町での葉っぱ寿司作り



越前市での紙漉き体験



敦賀市での稲刈り体験



坂井市での漁見学

4 全国「里の達人」サミット [9月11日(水)～12日(木)]

11日には、勝山市の県立恐竜博物館において、里山保全・活用の先駆者を全国から招き、福井県内の団体を交えて「全国『里の達人』サミット」を開催しました。各団体の事例発表に先立ち、東京農業大学名誉教授の進士五十八（しんじいそや）氏が「都市と農村との共生時代を切り拓く『里の達人』」と題し、基調講演を行いました。その後、全国の「達人」からは自らの体験を交えながら、里山地域の活性化策についてパネルディスカッションや事例発表をととして貴重な提案をいただきました。



「里の達人」によるパネルディスカッション

サミット終了後は、講師と参加者との交流会が行われたほか、翌12日には勝山市内の里山、池ヶ原湿原、平泉寺白山神社などを視察する「里山ツアー」を行いました。

「里の達人」による事例発表

- ①コウノトリの郷づくり推進会 宮川 健三（福井県小浜市）
「コウノトリと人が共生できる豊かな自然環境を目指して」
- ②山田兄弟製紙 株式会社 山田 晃裕（福井県越前市）
「SAVE THE 鶴殿ヨシ原」～今、越前和紙に出来ること～
- ③金沢大学里山里海プロジェクト 中村 浩二（石川県金沢市）
「里山里海マイスターが能登半島を元気にする」
- ④NPO法人 山野草の里づくりの会 福岡 定晃（奈良県桜井市）
「手作りで始めた山野草の里づくりの歩み」
- ⑤北杜市オオムラサキセンター 跡部 治賢（山梨県北杜市）
「オオムラサキが教えてくれる里地里山の活用と教育」
- ⑥西条・山と水の環境機構 中越 信和（広島県東広島市）
「西条・山と水の環境機構の里地里山保全活動と山の日の制定」

5 エクスカーション [9月12日(木)]

12日には、IPSI設立後初めての試みとなる、エク
スカーション（現地視察）を行いました。参加者は、
福井県を代表する里山里海湖である越前市の白山地区
と三方五湖（美浜町・若狭町）を視察しました。越前
市ではコウノトリを呼び戻すための取組みの説明や白
山小学校児童の皆さんによる発表が、三方五湖では自
然再生に向けた活動の説明がありました。参加者は
「コウノトリ呼び戻す農法米」をはじめとする県内の
里山の恵みで作られた「里山弁当」や、三方五湖のし



IPSIメンバーによる越前市白山地区視察の様子



福井の里の恵みで作られた里山弁当

じみ汁などの味覚も楽しみながら、福井の里山の美しい風景を心
に刻みこんだことと思います。

エクスカーション終了後、あわら市のあわら温泉の旅館におい
てレセプションを催しました。レセプションには、IPSI-4の参加
者をはじめ、地元福井の里山保全団体等から180名が参加し、福
井の食を堪能しました。会場では福井の伝統芸能である「八田獅
子舞」（越前町）と「三国節」（坂井市）が披露され、参加者から
は盛大な拍手が送られました。

6 SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク設立総会 [9月13日(金)]

13日には、SATOYAMAイニシアティブの理念を
国内において推進するための組織「SATOYAMAイ
ニシアティブ推進ネットワーク」が101団体の参画を
得て設立され、発起団体代表の谷本石川県知事と西川
知事が共同代表を務めることとなりました。

今後、国内の企業や民間団体、研究機関、行政など
で交流・連携・情報交換等を図り、里山の保全や利用
の取組みを全国的に進めていきます。



SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク設立総会

7 Satoyama Dialogue [9月13日(金)]

13日の夜には「Satoyama Dialogue with Political
Leaders」と題し、里山の保全や持続可能な利用に積
極的に取り組む福井・石川両県知事とIPSIメンバーと
の対話が行われ、今後のSATOYAMAイニシアティ
ブの推進について議論しました。

また、冒頭には、小浜市出身の華道家、前野博紀氏
による里山装花パフォーマンスが披露され、会場に彩
りを添えました。



IPSIメンバーと西川知事との対話の様子

8 SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合 (IPSI-4) [9月13日(金)～14日(土)]

13日から14日にかけて、28の国と地域から124名の政府関係者や研究者等が参加し、福井市の福井県国際交流会館でIPSI-4総会および公開フォーラムが開催されました。

初日に行われた総会は、西川知事のあいさつで開会し、IPSI戦略を実施に移すための行動計画が承認されました。また、福井県の3団体（越前市、若狭町、山田兄弟製紙株）を含む8団体の新規加盟団体が紹介されるとともに、次回の定例会合を韓国の平昌（ピョンチャン）で開催する案が発表されました。

引き続き行われた公開フォーラムにおいては、「地域の視点からみた社会生態学的生産ランドスケープ・シーンスケープ（SEPLS）の保全と活用における課題と可能性」をテーマに議論が行われ、福井県を含む世界各国の事例の紹介がされました。

9 県民シンポジウム [9月14日(土)]

県民シンポジウムが、14日午後、国際交流会館で行われ、IPSI-4の参加者と県民が一緒になって国際会議の成果を確認しました。

武内和彦国連大学上級副学長によるIPSI-4の成果報告の後、鷺谷いづみ東京大学教授のコーディネートのもと、IPSIメンバーのジョー・ムロンゴイ氏、ジョン・ギヤスライト中部大学教授、吉田丈人東京大学准教授、杉本福井県副知事によるパネルディスカッションが行われました。パネリストからは「SATOYAMAを次世代へつなぐために必要なことは何か」などのテーマに沿って、各分野からの提言が行われました。

引き続き行われたクロージングスピーチで西川知事は「今回の国際会議は福井県あるいは日本の里山保全の歴史に新たな一ページを加える一週間になった。10月に発足する「福井県里山里海湖研究所」を中心に一層、里山里海湖の活性化を進めていきたい。」と述べました。



公開フォーラムの様子



SATOYAMA国際会議2013inふくい 参加者



パネルディスカッションの様子



地元高校生によるメッセージ

一週間にわたる国際会議の最後を締めくくったのは、若狭高校と美方高校の2名の生徒による「SATOYAMAの未来に向けたメッセージ」でした。二人は自らの里山保全活動を通して得た経験を踏まえ聴衆に訴えかけ、最後は英語で「みんなで手を組み、楽しみながら、学び、活動し、明るい未来を手に入れませんか。」とメッセージを発表しました。

10 ポスターセッション

里山保全に取り組む国内外の団体が活動を紹介するポスターセッションを、13、14日に国際交流会館で行いました。97点の応募の中から来場者の投票などをもとに表彰作品が選ばれ、福井部門からは越前市の「水辺と生き物を守る農家と市民の会」が、IPSI部門からは「ハワイ州農務局」がグランプリに選ばれました。



ポスターセッション受賞者（福井部門）

ポスターセッション福井部門 受賞者一覧

賞名	団体名（市町）	ポスタータイトル
グランプリ	水辺と生き物を守る農家と市民の会（越前市）	コウノトリをシンボルとした自然再生と地域づくり
福井賞	中番環境を守る会（あわら市）	中番環境を守る会 活動報告
福井賞	上根来里山再生プロジェクト（小浜市）	多様な主体の連携で限界集落に挑む
福井賞	福井県立若狭東高等学校（小浜市）	間伐材の活用から森林の環境保全を考える
奨励賞	河和田自然に親しむ会（鯖江市）	健全なSATOYAMAは私たちのいのちを未来につなげます
奨励賞	ハスプロジェクト推進協議会（若狭町）	三方五湖の自然再生にむけて
奨励賞	福井新聞コウノトリ支局（越前市）	コウノトリと人、一緒に暮らす
奨励賞	福井県立若狭高等学校探究科学チーム（小浜市）	若狭の里海再生
奨励賞	アボットジャパン株式会社 社勝山事業所（勝山市）	アボット勝山の森

11 これからのSATOYAMA ～里山里海湖研究所～

「SATOYAMA国際会議2013inふくい」の成果を引き継ぎ、里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、10月30日に「福井県里山里海湖研究所」を開所しました。

研究所では、「研究」、「教育」、「実践」の三つの役割を担います。

「研究」については、生き物と人の共生、里の食文化、里海湖の環境を守るしくみ、年縞による里山起源の探究など、生物多様性を守り、その恵みを人々の暮らしに結びつける様々な工夫を研究します。

「教育」については、里山里海湖の大切さを子どもたちに伝えるとともに、地域の保全再生活動を担うリーダーを育成します。



里山里海湖研究所の外観



進士所長と西川知事による看板除幕の様子

「実践」については、里山里海湖の保全再生に頑張る地域を顕彰・応援し、共に活動します。

研究所の所長は、里山里海湖保全の第一人者であり、本県の里山里海湖に造詣が深い、東京農業大学名誉教授の進士五十八氏が務めます。

スタッフには、小学校の先生などの教員、県立大学の研究者なども加え、研究と教育が一体的に行える体制といたしました。

平成26年度からは専任の研究員も加わり、本格的に研究所の活動を行う予定です。

2 地質学の世界標準 水月湖の「年縞」について



水月湖の年縞

年縞とは湖底などの堆積物にできる左写真のような縞模様のことです。この縞模様は、春から夏にプランクトンの死骸等によりできた色の明るい層と、秋から冬に粘土鉱物等によりできた色の暗い層が交互に積み重なることにより1年に1対の縞が形成されていきます。

年縞には、過去の湖周辺の自然環境や火山の噴火、洪水、地震の発生などの情報が記録されており、年縞を解析することで精度の高いデータを得ることができます。また、年縞に含まれる葉の化石などを解析することで、世界中で発見された出土品などの年代決定にも用いられています。

水月湖では1993年、2006年、2012年に学術ボーリング調査が行われ、2006年の調査では約50m（7万年）の途切れのない年縞が採取されました。過去7万年にわたる年縞が途切れなく連続し、詳しく調査された湖は世界でも類を見ないものです。

1 地質学的な年代決定の世界標準として採用

平成25年9月23日に水月湖の年縞データを採用した放射性炭素校正モデル「IntCal13」が公表されました。水月湖の年縞が地質学上の年代測定の「ものさし」として世界標準になり、従来の「IntCal09」よりも飛躍的に精度が高まりました。

これを受け平成25年9月30日には西川知事と年縞研究者の中川毅英国ニューカッスル大学教授、米延仁志鳴戸教育大学准教授、山根一眞県文化顧問による共同記者会見が行われました。



共同記者会見の様子

2 年縞研究成果発表会の開催

水月湖の年縞を多くの方々に知ってもらおうと平成25年7月15日に県立三方青年の家で中川毅教授と山根一眞県文化顧問を迎え発表会を開催しました。世界的に高い評価を得ている理由や年縞分析による今後の新たな発見の可能性などについて発表していただきました。

また、8月31日には福井県国際交流会館で青山和夫茨城大学教授を迎え第2回研究成果発表会を開催し、水月湖の年縞を用いた精密な年代測定により新たに分かったマヤ文明の歴史などについて発表していただきました。



研究成果発表会の様子